



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／福 宏人 鹿児島県いちき串木野市教育委員会社会教育課 課長補佐
渋谷 秀文 島根県益田市立高津小学校 教諭

分科会の進め方

13:30～13:35

1 “商店街でママ元気”—子育て支援と商店街活性化構想を融合した「若松みらいネット」の実験事業— 13:35～14:05

四宮 嵩世（北九州市若松区役所まちづくり推進課 社会教育主事）

「若松みらいネット」は市民主導で企画・実践するまちづくりの実験事業である。平成20年度は6つの企画が実践され、本事業はその一つで「子育て支援と商店街活性化を融合した試み」である。プロジェクトは商店街と連携し、空き店舗の提供を受け、買い物客の託児を引き受けると同時にそれぞれの商店主が調理法や素材の見分け方など単発講座方式の学習機会を提供した。実験は成功したが、真の課題は子育て支援、生活学習、商店街活性化という異なった課題を商店街自身がいかに統合して自立するかである。

2 青少年の青少年による地域貢献イベントの創造—周南市次世代リーダー育成「be…プロジェクト事業」— 14:10～14:40

神杉 朋史（前山口県周南市教育委員会生涯学習課 主査）

平成17年から3カ年の事業。青少年自身による地域貢献イベントの開催を通じて、青少年のリーダー養成と地域活性化の両面を目指し、Beプロジェクト実行委員会メンバーのネットワーク化を構想した。実行委員会は「伝えたいこと」、「挑戦したいこと」を自分たちの力で企画・実践する事を原則とした。実施プログラムは展示、体験ブース、ステージにおける表現活動、ストーリー・パフォーマンスなど多岐にわたった。最大の成果は参加者の関心、意欲、行動力が著しく向上したことである。

ティータイム

14:40～15:05

3 「青年の家」による幼稚園・保育所の「幼児期自然体験」プログラムの開発と推進—鳥取県大山青年の家「営業促進」プロジェクト— 15:05～15:35

生田 信樹（鳥取県立大山青年の家 指導係長）

施設の新規利用者の拡大を目指した営業戦略と幼児期の自然体験の推進を同時並行的に行う事業である。対象は大山町内の全保育所と米子市の幼稚園、プログラムは「野外炊事」、「秋見つけ」、「星空観察」、「雪遊び」など四季を通じたプログラム開発を進めている。営業成果は上々で利用者・入所件数が増加している。幼児を対象とした関係上、安全管理、発達段階別プログラムの開発、保護者を巻き込んだ自然体験活動の推進などに努力を焦点化している。

4 学生保育サポーターによる家庭訪問型子育て支援プログラムの方法と効果 15:40～16:10

黒田 奈々（宮崎市 NPO法人ドロップインセンター 理事長）

本事業は別事業に関わった大学生が「子育て中の家庭を訪問してみたい」という要望から開始されたものである。学生の関心は、子育て家庭の孤立を防ぎ、地域と連携した子育てを目指す当該法人「ドロップインセンター」のミッションとも一致したので事業化し、現在5年目である。宮崎公立大学と宮崎大学の関係ゼミと連携し、学生が保育サポーターとして参画している。訪問は毎週、家庭に対しては育児支援、学生にとっては親準備教育の機能を果たしている。募集事務、養成講座、受け入れ希望家庭とのマッチングなどが当該法人の仲介任務である。